授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2524 号

Progression of Tricuspid Regurgitation Early After Isolated Mitral Valve Repair

僧帽弁形成術後短期での三尖弁逆流の進行に関する研究

Esra Kaya（かや　えすら）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
本論文は、僧帽弁形成術後短期での三尖弁逆流の進行とその予測因子について検討した研究である。2014 年から 2019 年までに順天堂医院において僧帽弁形成術のみを行った器質性僧帽弁閉鎖不全症患者において、術前と術後短期での三尖弁逆流の重症度変化を後ろ向きに調査し、三尖弁逆流進行の予測因子について検討している。全 214 例の研究対象患者の平均年齢は 59 歳で 32.7％は女性であった。術前に 77.6％の症例は三尖弁逆流を認めず、20.6％は軽度逆流、1.9％が中等度逆流を認めていた。僧帽弁形成術後退院直前の心エコー検査では、15.4％の患者において、三尖弁逆流が術前より増加していた。術後三尖弁逆流が増加した患者群は、増加していない患者群と比較して有意に高齢（p=0.003）で BMI が低値(p=0.017)であった。多変量解析でも、年齢(オッズ比 1.04,p=0.01)と BMI(オッズ比 0.88,p=0.043)は独立した三尖弁逆流進行の予測因子であった。僧帽弁閉鎖不全症に合併する三尖弁逆流は重症であれば同時手術が推奨されているが、中等度以下で三尖弁形成術を行うかは議論がわかれており、術後短期での三尖弁逆流進行の予測因子について明らかにした本研究は臨床的に意義があると考えられる。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。